

第 192 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 5 年 1 月 5 日（木）11:00～12:00

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

- ・会議の概要
- <報告事項>
- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。
- <その他報告事項>
- ◇ インフルエンザの流行状況について、総括情報部より報告があった。
- ◇ ポストパンデミックにおける医療提供体制について要請があり、総括情報部より報告があった。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、系数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、
テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

（1）沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について【資料 1～7】

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 病床使用率はここ 2 週間 30%を超えている。重症者用病床使用率は 12/27、28 に 20%を超えていたが、その後減少し 10%台で推移している。
 - ✓ 前週比は 12/28、29 に 1.4 を超えていたが、1/4 は 0.99 となっている。新規陽性者数も減少しているが、これは年末年始で医療機関の休業等で一時的に下がっているものと考えられる。本日の新規陽性者数は 2,366 名。9/3 以来の 2,000 人を超える人数となっている。
 - ✓ 入院中の患者は 2 週間前 215 名、1 週間前は 240 名で、現在 230～240 名で推

移している。

- ✓ 宿泊施設療養中の人数は一時 300 人を超える日もあったが、現在は 271 となっている。
- ✓ 発熱コールセンターにおける、日ごとの入電総数、応答数、ユニーク応答率を見ると、12/28 までは多い日も 300 件台の入電総数となっていたが、その後上昇し、直近の 1/3、4 には 1,000 件を超える入電があった。電話回線を増加し、現在 33 回線で対応している。
- ✓ 全国の「直近一週間の人口 10 万人当たり新規陽性者数」では、中国・九州地方での感染が広がっている状況。沖縄県は全国 45 位。
- ✓ 沖縄県の年代別新規陽性者数の推移から、最も陽性者数が多いのは 20 代、次いで 30 代、40 代と続いている。一時グラフが下向きになっているが、これは年末年始の検査数減による影響と考えられる。
- ✓ 非コロナ病床利用率について、一般病床については県全体で 86.6%となっている。直近一週間で見ると、本島全体で 87.4%だが、南部地区では 90%を超える日が続いている。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、1/4 は 286 名が休業しており、内訳としては看護師 148 名、コメディカル 107 名、医師 31 名となっている。昨年 1 月の 705 名に比べると少ないが、休業者数は増加傾向にある。
- ✓ ワクチン接種状況について、1/3 時点では、1 回目 72.2%、2 回目 71.4%、3 回目は 50.8%となっている。高齢者のみだと 3 回目接種は 85.7%が完了している。4 回目接種については 27.5%で、60 歳以上のみの集計では 64.8%、5 回目接種については 9.1%、60 歳以上で 29.2%が接種している。
- ✓ オミクロン株対応ワクチン等接種対象者数及び接種実績について、10 月は 45,750 名、11 月に 118,329 名、12 月に 141,972 名が接種しており、累計では 12 月末時点で接種対象者 1,029,208 名に対して 30.13%に当たる 310,090 人が

接種済みとなっている。60歳以上に限定すると、44.35%が接種完了している。

- ✓ 出向き接種の状況、商業施設では1月もイオンモールライカム、うるマルシェ、イーアス豊崎での出向き接種を予定している。
- ✓ 県庁・大学の接種では、12/19から12/23までの5日間沖縄県庁で臨時会場を設置し、連日100名ほどの接種を行った。今後も予定が決まり次第順次掲載していく。

(2) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 1/4時点の県立病院の入院患者は65名で前回報告より8名増、前々回報告より34名増。県立病院が現在確保しているコロナ病床のうち、53.7%が稼働している。
- ✓ 県立病院の入院患者は、北部病院10名、中部病院10名、南部医療センター13名、宮古病院6名、八重山病院8名、精和病院18名となっている。非コロナ病床稼働率は南部医療センターで95.9%、その他の病院については少し空きがある状況。
- ✓ 北部病院では救急外来の患者の受診者（発熱患者）が徐々に増加しはじめている。
- ✓ 中部医療圏域ではインフルエンザが先週から今週にかけて増加し、猛威を振り始めている。子どもの感染が多く来週から学校が始まるので勢いの増加が懸念される。コロナ感染者は徐々に増えているがインフルエンザほどではない。
- ✓ 南部医療センターでは一般病床がひっ迫しており入院患者の退院を促すなど自転車操業の状態。年末年始は1日170人が救急室受診しそのうち小児が6割。コロナよりもインフルエンザAが多くなっている。
- ✓ 宮古病院のコロナ入院患者は6～8人で、漸減傾向。救急受診患者は12月の

土日 30～50 人に比べ年末年始は 60 人台で増加していた。多良間村では感染増加や職員濃厚接触などがあり、12/19 から電話診療を行っており現在も継続している。

- ✓ 八重山病院の発熱外来及び救急外来の患者の受診状況は通常どおりで、現場に大きな負荷はない。
- ✓ 精和病院の入院患者は 5 人。職員の休業者が徐々に増加しており、今後急速に増加する可能性がある。現在は一般診療、救急当番も通常通り行っている。
- ✓ 年末年始における救急外来受診者数は、県立病院全体（精和病院を除く）で、1 日平均 527.5 人が受診しており、年末年始前と比べ概ね 2 倍の受診者数となっていた。
- ✓ 県立病院でも休業者は増えており、1/4 現在で 116 名が休業している。

（3）宮古・八重山地域の感染状況について

➤ 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 今週の陽性者は 30 人で、前週比 0.3 だったが、年末年始で検査が減ったことによるものだと考えられる。届出対象外の患者が増えている様子。
- ✓ 入院患者は 10 名以内で安定している。
- ✓ 10 代が最も多く、次いで 40 代となっているが、10 歳未満、10 代、20 代の若い世代で増加傾向にある。
- ✓ 学校閉鎖や事業所の閉所といった情報はない。宮古ではインフルエンザの流行といった報告もない。
- ✓ 施設の発生状況は今週 4 施設。先週が 10 施設だったため、減少している。年末年始だったことが影響しているかもしれない。施設内療養者は 4 名で、最大 67 名だったので、こちらも今は少ない状況。
- ✓ 多良間村では年末に大規模な感染があったが、落ち着いてきている。しかし、

発生届対象者となる患者の単発的な発生は続いている。

- ✓ 年末年始については特に大きな問題もなかった。

- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 直近一週間では 155 名の陽性者。前週 233 名だったので、前週比 0.67 倍。下がっているが、年末年始の医療機関・検査機関の休業が響いている。12 月の前週比の平均が 1.1 と緩やかな増加を見せていたため、注視していく必要がある。
 - ✓ 年代別では割合が高い順に、20 代、10 代、40 代が多数を占めている。65 歳以上についても 1 割を超えているが、どの世代で広がっているかといった特徴は見られない。
 - ✓ インフルエンザが流行しそうといった報告は今のところない。
 - ✓ 12 月中旬以降、入所施設でのクラスターが 2 件発生したが、年始開けで対応終了している。12 月下旬に発生した別の施設でのクラスターについてはまだ続いており、対応中。
 - ✓ 年末年始の所内体制についてはオンコール体制で特に大きな問題はなかった。

(4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA 等の状況【資料 8】

- 文化観光スポーツ部より報告
 - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、12/26 の週の受検者は 1,978 名で、前週比+432 名。内訳は、県内在住者 1,818 名、県外在住者 160 名、陽性者は 77 名で、陽性率は 3.9%となっている。発生届対象者は 1 名。
 - ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 445 名。前週比+14 名。うち県内在住者 308 名、県外在住者 137 名、抗原検査陽性は 11 名であった。発生届対象者は 3 名。
 - ✓ TACO について、12/26 の週の電話対応件数は 48 件で、うち健康相談・問診実

施数は 37 件となっている。

(5) 質疑応答

- ✓ 本日の新規陽性者数については知事コメント及びマスコミへの配布資料で伝え方がよい。昨日までの数値だけを見ると、減っているようにしか伝わらないが、本日は大幅に増えており、県民の皆様へしっかりと情報を伝え、感染対策について呼びかける必要がある。

→年末年始の影響で見かけの数値は少なく見えるが、本日の数値はしっかりと伝え、警戒を呼び掛けていく。

3 その他報告事項

(1) インフルエンザの流行状況について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 感染症発生動向調査による本県のインフルエンザ定点からの報告数が、2022 年第 51 週 (12/19~25) に定点あたり 2.91 人 (定点医療機関 56 ヲ所、報告数 163 人) となり、約 2 年 9 ヲ月ぶりにインフルエンザの流行の兆しの指標とされている定点あたり 1.00 を超えた。
- ✓ 今後、流行の拡大を抑えるためにも、マスコミ宛て、「手洗い」「咳エチケット」「予防接種」等の感染予防策の県民への周知をお願いするところ。
- ✓ インフルエンザの流行状況として、感染症発生動向調査では、県内のインフルエンザ 56 定点医療機関 (小児科定点 : 33、内科定点 : 23) の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約 5,000 ヲ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供する。
- ✓ 例年インフルエンザは 1~2 月に流行のピークを迎えるが、新型コロナウイルス感染症が世界的大流行になって以降、低いレベルで推移していた。しかし、

2022 年は南半球のオーストラリアで5月以降、インフルエンザが流行しており、国内においても今年の冬は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行の可能性がある。

- ✓ 本県でのインフルエンザ報告数は、2020 年第 12 週（3/16～22）に定点当たり 1.02 となったのを最後に、これまで 142 週連続で定点当たり 1.00 人未満が続いていた。しかし、2022 年第 50 週（12/12～18）に 0.80 人（報告数 45 人）と増加に転じ、2022 年第 51 週（12/19～25）に 2.91 人（報告数 163 人）となった。
- ✓ 第 51 週に報告されたインフルエンザウイルスの型別割合は、A 型が 97.5%、B 型が 1.2%となっている。年代別では、5～9 歳が 52 人（31.9%）と最も多く、次いで 1～4 歳 31 人（19.0%）、10～14 歳 21 人（12.9%）の順となっている。
- ✓ 第 51 週における保健所別の定点あたり患者報告数は、中部保健所で 5.78 人と最も多く、次いで那覇市保健所 3.33 人、南部保健所 1.29 人、八重山保健所 0.33 人の順となっている。北部保健所及び宮古保健所からの報告はない。
- ✓ 全国の定点あたりの人数は、51 週で 1.24 となっている。また、沖縄県の 52 週の定点あたりの人数は 9.89。

（2）ポストパンデミックにおける医療提供体制について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 沖縄県の医療提供体制を考える有志一同による県に向けた要請となっている。
- ✓ 高齢化が急速に進展している沖縄県では、従来の医療体制のままでは地域医療が支えきれなくなってしまうため、新型コロナに限らず、インフルエンザなどにより急速な医療需要の増加が生じたときに備え、今回のパンデミックの経験を活かし、超高齢社会に備えて沖縄県の医療体制を強化していく必要があると

いった形でコーディネーター有志一同によってまとめられた内容となっている。

- ✓ 相談体制としては、現在、新型コロナに特化しているコールセンターについて、総合的な電話相談へと引き継ぐこと。具体的には、沖縄県でも大人向けの「救急安心センター事業（#7119）を開始し、すでに運用している「子ども医療電話相談事業（#8000）」の拡充。また、旅行者専用相談センター沖縄（T A C O）」についても、旅行者の健康不安に対する窓口としての運用が求められる。
- ✓ 検査体制として、県民には一定の検査ニーズがあり、今後も市中でP C R検査が受けられるようにしてもらいたい。また、症状にある方については、市販の抗原検査を活用するよう呼びかけること。
- ✓ 外来診療について、感染症の流行により外来需要の増大が予測されるときには、臨時に発熱外来を設置すること。また、臨時運用にあたっては、必要となる経費の支援等が必要。
- ✓ 救急医療について、入院待機ステーションは、救急外来を守ることに貢献しており、今後も医療需要が急速に増大する際には、臨時に立ち上げる体制としてもらいたい。また、地域包括ケアシステムを構築し、24時間の電話相談や往診体制、訪問看護との積極的な連携を進め、適切な救急外来の受診や、救急車の要請ができるよう市町村や医師会等の協力を得て住民や介護従事者への教育を進めること。
- ✓ 入院医療として、新型コロナ患者の入院状況をリアルタイムで可視化し、効率的な入院調整を行ってきたO C A Sに準ずるシステムを継続することが必要。
- ✓ 施設支援として、高齢者は感染症に対して脆弱であり、高齢者施設に対する指導を継続し、施設内療養者への診療支援が必要。感染対策の指導は原則として保健所で対応してもらえらるものと考えているが、感染症や感染管理を専門とする医師、看護師の派遣や、かかりつけ医が対応できない際に診療にあたる医師

を紹介する仕組みの構築、介護人材応援派遣にかかるコーディネート事業の継続が求められる。

- ✓ 宿泊施設について、県外からの観光客（とくにインバウンド）において、旅行中の感染が明らかになった際に、療養場所の紹介が求められるため、観光事業者と連携し、感染者が療養できるホテル等の確保について調整をお願いしたい。
- ✓ コロナ対策本部内でも共有し、各部局と連携し体制の構築を目指していきたいと考えている。

（3）質問応答

- ✓ インフルエンザについての呼びかけで、「咳エチケット」としているが、コロナと同様マスク着用の呼びかけをした方がよい。
→前回のインフルエンザ流行時のものを参考に作成したものだったが、マスク着用が浸透しており、修正して発出を行う。
- ✓ 救急安心センター事業（#7119）については、現在知事公室で検討中。内容については保健医療部にも相談させていただきたい。
→現在運用している子ども医療電話相談事業（#8000）と同じような形で運用する形となると思う。連携しながらどのような形となるか検討したい。

閉 会